

会 報

1995年度

1. 春季大会記事

1995年度春季大会は、6月25日（日）に札幌天神山国際ハウスにおいて開催され、以下の日程により、研究発表、総会、大会記念講演が行われた（参加者42名）。

●研究発表（午前の部）

寺田 稔（北海学園大学教養部）：日本における花き類生産の動向と地域類型区分

土井 時久（北海道大学農学部）：長崎県の馬鈴薯生産と北海道

鈴木 正章（道都大学短期大学部）：恵庭市の完新世後期のテフラ層序

●研究発表（午後の部）

木村 圭司（東京大学・院）：シベリア高気圧の発達様式

後藤 忠志（北海道教育大学岩見沢校・研）・武田 泉（北海道教育大学岩見沢校）：専修学校における地理学関連授業科目の現状

武田 泉（北海道教育大学岩見沢校）・後藤 忠志（北海道教育大学岩見沢校・研）：学校教育における野外活動の現状と環境教育の理念

●総会

1994年度事業報告、決算報告が承認された。1995年度事業計画とこれに基づいて1995年度予算案が承認された。

1994年度決算

（収入）

縁越金	140,176
会費収入	463,600
雑収入	184,543
計	788,319
(雑収入内訳：広告料 80,000 会誌売却 1,500 札幌大学大会補助 100,000 預金利子 3,043)	

（支出）

会誌 No. 69印刷費	430,000
事務費	35,936
通信費	58,380
謝礼	12,000
大会補助	20,000
会議費	1,701

予備費 709

計 558,726

次年度繰越金 229,593

1995年度予算案

（収入）

縁越金	229,593
会費収入	500,000
雑収入	107,000
計	836,593
(雑収入見込み：広告料 100,000 会誌売却 2,000 預金利子 5,000)	

（支出）

会誌 No. 70印刷費	430,000
事務費	36,000
通信費	60,000
謝礼	20,000
大会補助	20,000
会議費	7,000
予備費	263,593
計	836,593

役員の任期満了に伴い、1995-1996年度期の役員改選が行われ、次の役員が選出された。

会長 奥平 忠志

副会長 佐々木 異

〃 林 隆治

会計監査 木村 光夫

〃 大森 好男

なお、新会長より次の幹事が委嘱された。

幹事長 大内 定（庶務・会計兼担）

幹事 羽田野 正隆（集会）

〃 進藤 賢一（〃）

〃 山下 克彦（編集）

〃 貞方 昇（集会）

〃 寺田 稔（編集）

〃 山内 正明（〃）

●大会記念講演

演者：黒河 功 先生（北海道大学農学部教授）

演題：「中国の乾燥地域における畜牧について」

黒河先生は中国の農業経済の専門家で、近年モンゴルや中国西域の乾燥地域における畜牧経済（農業経済学の用語であり、演題の中の「畜牧」も地理でいう牧畜と敢えて異なった表現としている）について研究されている。今回の講演では、中国のウイグル自治区でモンゴルとの国境に近い乾燥地域における遊牧農業について、スライドを用いながら講演いただいた。中国側の遊牧農業は、伝統的なバオ（庖）に住み移動を原則とした遊牧から、次第に放牧形式の定着牧畜に転換（一部は畑作化）しつつあり、これに伴い、生活様式も子供の教育なども含め変化しつつあるとの興味深いお話をあった。

2. 秋季大会記事

1995年度秋季大会は、10月15日（日）に次のテーマとコースにより、貸切りバスを使用して行われた（参加者35名）。巡査の内容については、今号の巡査記録：「沙流川、鶴川の中・下流域の自然と産業」に掲載されている。なお、資料の提供とご説明をいただいた北海道開発局河川計画課・森田課長補佐（沙流川と二風谷ダム）、穂別町役場農業振興課・本多課長（平取町の農業）、平取町役場・上山助役（平取町の産業）、門別町の馬産に関して門別町農業協同組合の各位にお世話をいただいた。また穂別町農家の黒崎氏、門別町北海牧場にはそれぞれ農場の説明をいただいた。以上の方々に感謝申し上げる。

巡査テーマ：「沙流川、鶴川の中・下流域の自然と産業」
コース：

大谷地バスター・ミナル（午前9時00分出発）－国道274号－長沼町－由仁町－夕張市滝ノ上－夕張市紅葉山－道道74号－穂別町メロン栽培農家－穂別町市街（昼食）－富内－道道131号－幌毛志－国道237号－額平－二風谷（ダム、アイヌ文化資料館）－平取町市街－門別町軽種馬農家－鶴川町市街－苦小牧東部－苦小牧東部工業基地－道央自動車道
大谷地バスター・ミナル（16：55帰着、解散）

案内者：

進藤賢一（札幌大学）、大内 定（北海道教育大学札幌校）、菊地正義（札幌稻北高校）、山内正明（藤女子高校）

3. 例会記事

10月7日（土）に、藤女子高校社会科室において、講演会形式で次のように例会が催された（参加者19名）。

演者：Yehuda Gradus 先生（イスラエル・ベンギリオン大学地理学教授・社会経済学部長）

演題：「乾燥地域における開発と砂漠化」

Gradus 先生は、おりから九州大学経済学部（宮川泰夫教授）に招聘されており、イスラエルの乾燥地域の農業開発

と北海道の農業開発を「辺境地帯」の意味で比較研究のため来道されたのを機会に講演いただいたものである。講演では、スライド、OHPを使用しながらイスラエルのネゲブ（Negeb）砂漠の灌漑・農業開発について詳しい経過と近況を解説され、山下克彦幹事による逐次通訳により行われた。講演終了後も1時間に及ぶ活発な質疑応答があった。講演内容は今号に特別寄稿として掲載されている。

4. その他

●会員消息（会誌69号掲載以降、順不同、勤務先住所、自宅住所などは会員名簿に記載）

入会：

大川隆（動気候研究家）、堤純（北海道大学文学部）、高橋徹（北海道教育大学札幌校・院）、北田晃司（東京大学・院）、相原正義（北海道教育大学函館校）、遠藤陳由（-）、後藤忠志（秋田桂城短期大学）、松本穂高（北海道大学大学院地球環境科学研究科・院）、吉崎雅恵（俱知安中学校）

会員異動：

岩崎一孝（北海道大学文学部→静岡大学情報学部社会情報学講座）、松本光（大樹高校→俱知安高校）、今野豊（旭川東栄高校退職→北海学園大学経済学部（非））、小山賢一郎（札幌手稻高校退職）、山本光明（鶴川町官戸小学校退職）、今井敏信（弘前大学教養部退職→秋田桂城短期大学）、武田英俊（苫小牧東高校→札幌稻雲高校）、後藤昌美（枝幸高校→大麻高校）、飯塚崇教（札幌市新川西中学校→札幌市新琴似中学校）、北守司（札幌市南の沢小学校→札幌市月寒東小学校）、池谷和信（北海道大学文学部→国立民族学博物館）、岡本次郎（北星学園大学経済学部退職）、寺谷亮司（愛媛大学教養部→愛媛大学法文学部）、宮田日出夫（北海道教育大学札幌校・院→篠路高校）

退会：

中村太士（北海道大学農学部）、中村彌一郎（-）、野中健一（名古屋大学文学部）、奥本繁、守屋以智雄（金沢大学文学部）、渡辺葉紀（明治コンサルタント（株））、新保竹司（旭川東高校（定））

●訃報

石垣恵蔵会員は、室蘭市立蘭東中学校在職中、1995年12月29日、肝内胆管癌のため逝去されました。ここに謹んで石垣先生のご冥福をお祈りいたします。

●学会よりのおもな会誌配布先（交換も含む）

日本地理学会、人文地理学会、東北地理学会、福島地理学会、北海道立文書館、北海道立図書館北方資料室、北海道大学図書館北方資料室、北海道教育大学本部図

書館, 札幌大学図書館, 北海道開拓記念館資料室, 北海道地下資源調査所, 古今書院編集部, 大明堂編集部, シカゴ大学極東文化研究所資料室, 東京都立大学図書館, 国立国会図書館, 地理教育研究会（筑波大学附属駒場中高等学校内）

◎ 学会事務局からのお願い

●会費納入のお願い

1996年ないしこれ以前の年度について会費未納の会員には、円滑な学会運営のため納入につき特段のご協力ををお願い申し上げます。納入額のある方は、1996年度春季大会会告通知に同封してお知らせしております。なお、本号と行き違いですでに納入済みの際はご容赦ください。

●所属先、自宅住所の変更

変更になった会員には、それぞれの住所、電話番号を書き添えの上、学会事務局までご連絡ください。

北海道地理学会会則

- 第1条 本会は北海道地理学会と称する。
- 第2条 本会は地理学についての研究を目的とし、併せて地理教育にも資する。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
研究助成、研究発表、調査、講習、講演、研究報告書刊行など。
- 第4条 本会に入会するときは当該年度の会費を添え申込むものとする。
- 第5条 会員が退会するときはその旨を本会に通知すればよい。
- 第6条 本会に次の役員を置く。
会長1名、副会長2名、評議員若干名、監査2名、幹事若干名。
- 第7条 役員のうち会長、副会長、監査は会員の互選によって決定し、評議員、幹事は会長の委嘱による。
- 第8条 本会に顧問を置くことができる。顧問は幹事会の推薦により、総会の承認を得る。
- 第9条 総会は毎年1回開催し、予算決算の審議、役員の選出、その他の重要事項について審議する。
- 第10条 役員会は必要に応じ隨時開催する。
- 第11条 会員は会費年額3,500円を負担する。但し学生会員は年額1,500円とする。学生会員は、学部学生、大学院生、研究生などとする。
- 第12条 本会の事務局は当分札幌に置く。
- 第13条 本会は札幌、函館、旭川、釧路に支部を置く。
- 第14条 この会則の変更は総会の決議によって行うものとする。
- 第15条 会計は4月1日より、翌年3月31日までとする。

附則

本会会則は昭和25年12月1日から実施する。
会則第5、6、9、11、12、15、16条、
第17回総会で改正。
会則11条改正（1981年6月）。
会則11条改正（1987年6月）。
会則11条改正（1993年6月）。

「北海道地理」の投稿規定および執筆要領

(1996年度より適用)

投稿規定

1. 投稿の資格

特別の場合を除き、投稿は本学会の会員および顧問に限る。

2. 原稿の種別・原稿の長さ

(1)原稿の種別

論文、研究ノート、展望、解説、資料、紹介、書評、抄録など。

論文：地理学・地理教育に関するオリジナルな研究成果をまとめたもの。

研究ノート：上記に準じ、研究の中間報告・予報・短報をまとめたもの

展望：国内外の地理学・地理教育および関連分野の研究動向を明らかにし、今後の研究の展開に資するもの。

解説：地理学・地理教育および関連分野におけるトピックや諸問題についてその議論や問題点を紹介・解説したもの。

資料：データの発見・発掘など他の研究に資するもの。

紹介：その他、地理学・地理教育に関する事柄（例：紀行、巡検記、国内外研究機関訪問記など）を紹介したもの。

巡査報告：本会の学術大会巡査をまとめ、紹介するもので、編集委員会で巡査案内者などに原稿を依頼する。

大会研究発表要旨：大会研究発表者の発表要旨をまとめたもの。

書評：最近の地理学・地理教育および関連分野の出版書物の意義および内容を紹介したもの。

抄録：国内外の地理学・地理教育および関連分野の論文の内容を要約して紹介したもの。

他学会や研究会の動向、会員の動向：情報交換など相互の交流を図るために、最近の出来事などを紹介する。ただし、内容はなるべく地理学・地理教育に関するもので、学会記事欄に掲載する。

(2)原稿の長さ

論文、研究ノート、展望、解説、資料、紹介については、図・表を含めて誌面刷り上がり15頁以内とする。

巡査報告については、本文のみを原則とし、誌面刷り上がり5頁以内とする。

大会研究発表要旨：図表を含めて誌面刷り上がり半頁から1頁とする。

書評：本文のみで、1頁とする。

抄録：本文のみで、半頁とする。

他学会・研究会の動向、会員の動向：本文のみで半頁以

内とする。

3. 原稿の使用言語

論文、研究ノート、展望、解説、資料、紹介については、欧文・和文のいずれでもよく、欧文の場合は和文のタイトル・著者名・著者所属先名および800字程度の和文要旨を別に添えること。和文の場合は欧文のタイトル・著者名を別に添えること。キーワードを5語以内で添えること。また、和文の場合は1頁幅の刷り上がり20~30行の欧文要旨（この場合欧文の著者所属名も最後に付す）を添えることができる。

これら以外の原稿は和文とする。

4. 原稿の編集と採否

原稿は編集委員会で編集し、論文、研究ノート、展望、解説、資料、紹介については査読者を選定し、査読者の意見を参考に原稿の種別と採否を検討する。内容によっては、図表を含め、査読者の意見を参考に修正・書き直しを編集委員会が投稿者に依頼し、その結果により再検討する。

5. 原稿の送付と別刷り

原稿の送付は本会事務局宛とし、原稿の希望種別・タイトル・著者名・著者所属名・別刷り希望部数（10部単位）を別紙に明記すること。原稿をワープロで作成している場合は、フロッピーディスクも添付すること。

別刷りは、論文、研究ノート、展望、解説、資料、紹介に限る。別刷りの費用は論文、研究ノートについては50部まで学会で負担し、これを超える部数、あるいはこれら以外の掲載種別については時価により著者負担とする。

6. 原稿の校正

初校は原則として著者が行い、その後の校正是編集委員会で行う。

執筆要領

1. 本文

① 一般の400字詰原稿用紙を使用する場合は、横書きで書いて下さい。1頁に本文のみで約1,800字（4枚半）が入ります。

ワープロで作成している場合は、1行文字数を誌面に合わせて下さい。論文、研究ノート、展望、解説、資料、紹介、巡査報告の1行文字数は漢字で22文字です。これら以外、研究発表要旨、書評、抄録、他学会・研究会の動向、会員の動向については誌面の文字ポイントを1階級小さくしますので、1行文字数は漢字で26字になります。1頁の行数（空行も行数に含む）は、誌面は2段組みで1段当た

り前者で43行、後者では47行、合計それぞれ86行、94行です。ワープロ原稿で印字する場合は、2段組み印字の必要はなく、行数も区切りのよい行数（例えは30行）で結構です。

手書き原稿、ワープロ原稿のいずれの場合も誌面に入る図表の占めるスペースを考慮して全体の文字数を決定し、規定の誌面頁数を超えないようにして下さい。

なお、論文、研究ノート、展望、解説、資料、紹介について、最初の頁の1行目はタイトル、タイトルの次の行は著者名ですが、著者名の末尾の右肩にアスタリスク（＊）を付し（連名の場合、2番目の以降の著者はその順番の数のアスタリスク）、原稿の下の余白に著者所属名を付して下さい。（手書きで結構です）。

② 章建て、節建ての数字は以下のようにして下さい。

例：

- I. はじめに (章)
- II. 調査地域の概観 (章)
 - 1. 農業発達史 (節)
 - (ここまでゴシック)
- (これ以下の亜節は任意とします。以下は一例)
 - (1)明治期以前
 - (2)明治期以降
 - a. 大正期まで
 - b. 昭和期以降
- 2. 農業的土地区利用の特徴 (これはゴシック)
- .
- .
- III. 農業経営の分析 (これはゴシック)
- .
- .
- VI. 結語 (これはゴシック)
- 注 (注の文字はゴシック)

参考文献（参考文献の文字はゴシック）

③ 人名・地名・学術用語など特別なもの以外は、常用漢字、新かなづかいを用いて書いて下さい。

④ 年号は原則として西暦を使用し、必要があれば和暦などは（　）に入れて下さい。

例：1996（平成8）年

⑤ 動植物の学名は、なるべく和名を（　）内に併記し、イタリック体（アンダーラインを引く）を指定して下さい。ワープロでイタリック体印字の可能なものは、これで印字して下さい。

⑥ 研究発表要旨のタイトル、発表者の掲げ方は以下のようにします。

札幌の地理

—とくに高層マンションの分布について—

(ここまでゴシック)

札幌太郎（札幌地理大）

所属名は簡略形で通用する場合は簡略形を使用して下さい。大学は大、短期大学は短大、高等専門学校は高専、高校は高、中学校は中、小学校は小で十分です。

⑦ 書評のタイトルの掲げ方は次のようにします。

例：

札幌一郎：札幌の地理 (ゴシック)

札幌地理双書出版社、1996年、269ページ、2,000円

なお、文の最終行には右寄りに評者名と所属名を（　）に記入して下さい。

⑧ 抄録のタイトルの掲げ方は参考文献の例に準じます。この場合も文の最終行には右寄りに評者名と所属名を（　）に記入して下さい。

2. 図・表・写真

図・表・写真的タイトルは写植によりますので、図・表・写真的用紙には書かず、別紙にまとめて書いて下さい。番号は図1、図2、……、表1、表2……、写真1、写真2、……（文中での引用も同様）とします。図・表・写真的用紙には該当箇所に鉛筆で該当番号のみ書いて下さい。

① 図は、描画は製版可能にするため、製図ペンなどで墨入れの図、パソコンなどで作成した図は黒色で印刷した図を原則にします。カラーの図で、どうしてもカラー印刷の必要がある場合は、印刷費用が高価になりますので別途編集委員会に相談して下さい。図は縮小率を考慮して、製版の際消えるような細かい表現は避けて下さい。

図中の文字や記号は写植が可能ですが、その際は図の上にかけたトレーシング紙、または別にコピーした図に記入して下さい。図中の文字、記号はパソコンでWindowsまたはMacintoshのO.Sで使用されているTrueTypeフォントの文字は十分実用になりますので、貼り付けて結構です。これ以外のパソコン、ワープロでは小さい文字の場合は32ドット以上の文字なら使用して構いません。なお、図のタイトルは図の下の左寄りに写植で付けられます。

以上、不都合なものは返却のうえ、書き直しをお願いすることがあります。

② 表の誌面スタイルは、タイトルのすぐ下の罫線は太目に、左右端の罫線は省略します。そのまま製版する表を付ける場合はスタイルと縮小率に留意して下さい。なお、表のタイトルは表の上に罫線の幅以内に写植で付けられます。

③ 写真

写真是原則として白黒の印刷になります。もともと白黒フィルムの白黒写真がコントラストも鮮明に印刷されますが、近年は白黒写真の現像・プリントの方が返って高価で

す。カラー写真の場合はできるだけコントラストのよいものにして下さい。

3. 引用・注・参考文献

① 本文中の文献の引用は次のようにして下さい。

- ・山田 (1996) によれば………
- ・山田 (1996, p23) によれば…… (特定の頁を引用する場合, その頁を示す)
- ・～である (佐藤, 1992)
- ・こうした研究 (佐藤, 1968; 鈴木, 1981) では……
- ・吉岡・松本 (1971) は……… (2人の場合)
- ・Jones and Smith(1991) によると…… (2人の場合)
- ・斎藤ほか (1986) は……… (3人以上の場合)
- ・Johnson, et.al.(1992) は……… (3人以上の場合)

② 注は本文中の該当箇所の右肩に, 1), 2) のように示して下さい。

③ 注および文献は論文の本文の末尾に注, 参考文献のタイトルを付し, この順にまとめて記載して下さい。文献は和文のものを先に, 著者の五十音順に並べ, 欧文のものはこの後に著者のアルファベット順に並べて下さい。同じ著者で同一年に複数の文献がある場合は, 引用順に年号の末尾にアルファベットの小文字 (a, b, c, …….) を付して下さい。

単行本, 雑誌中の論文などの記載を含め, 記載例を以下に示します。

石水照雄 (1976) : 『計量地理学概説』古今書院, 242ページ。

石川 熱 (1976a) : 八幡平表層地温. 東北学院大学論集
(歴史学・地理学), 7号, 73-82.

石川 熱 (1976b) : 富士山の夏の表層地温. 東北地理,
28, 77-82 (卷数はゴシック)

柴 三九男 (1948) : 日本経済再建の地理学的方向. 新地理, 2-8, 8-17.
(通しページ数でなく号数も必要な場合)

シェパード, ロムニ, ナーラブ編: 岡本彬訓・渡辺恵子
共訳 (1976) : 『多次元尺度構成法 I : 理論編』共立出版社, 278ページ。

苫小牧市 (1975) : 苫小牧市史 (上). 1906ページ.

渡辺 光 (1956) : 海岸地形. 富田芳郎編: 『自然地理学 I』朝倉書店, 283-320.

Boyce, R. R. and Clark, W. A. V. (1964) : The concept
of shape in geography. *Geogr. Rev.*, 54, 561-572.
(雑誌の場合, 誌名をイタリック体)

Clark, D. (1973) : The formal and functional structure
of Wales. *A. A. A. G.*, 63, 71-84.

(誌名の略号が定まっている場合は略記)

Robinson, H. (1976) : *A Geography of tourism*. Mac-

donald & Evans, London, 478p

(単行本の場合は書名をイタリック体)

※ 会誌「北海道地理」は学会年度末刊行を原則とし, 每年2月末日を原稿締切日としています, 原稿の受け付けは随時いたしておりますので, ふるってご投稿下さい。